

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(神戸高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○不断の進化を続ける「高品位な進学伝統校」 ○生徒、保護者、地域から信頼され、期待される学校
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○自らを知り、自分の目標に向かって挑戦し続ける生徒
ありたい教職員の姿	○「生徒の育成」を願い、授業の充実や学校運営に進取の「気概」を持ち、「知恵」を絞ると共に「和」して働く「協働」の精神を持つ教師集団

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 学力の向上と希望進路実現、充実した教育内容と楽しく安全安心な高校生活環境 〈保護者〉 子どもの学力向上と進路保障、基本的な生活習慣向上と高いレベルでの人づくり 〈地域社会〉 地域の伝統校としての進学実績向上、地域を担うリーダーの育成・輩出	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈保護者〉 学習・進路・生活面でのきめ細かい指導 〈地域社会〉 地域の伝統校としての地位向上と将来を担うリーダーの育成 〈中学校〉 地域の進学校としての存在意義 〈地元大学〉 高大連携、目的意識醸成と基礎学力育成	〈保護者〉 学校と家庭間の連携と支援、信頼関係の構築 〈地域社会〉 学校運営への支援・協力、キャリア教育充実のための連携と協力 〈中学校〉 生徒の学習習慣の定着と生活習慣の確立 〈地元大学〉 高大連携の充実・促進
(3)前年度の学校関係者評価など	・CSの取組など、時代に合った、生徒が真剣に取り組めるものとなるよう工夫する必要がある。 ・学習時間調査に関しては、指標そのものの妥当性や結果の活用方法の検討を要する。 ・働き方改革に関する各項目に対する指標の取り方を工夫し、実態を分かりやすく反映できるようにする必要がある。 ・進学指導に関し、今後益々多様化する生徒の実態に合わせた指導が必要ではないか。	
(4)現状と課題	教育活動	【現状】 ①少子化に伴い入学してくる生徒の状況が変わりつつある。具体的には進学校で耐えるだけの学力を有していないと思われる生徒も入学してきており、学力の二極化がさらに進みつつある。 ②そういった背景とは別に、進学校としての役割を果たすべく、近年授業時間数を増やしたり(50分×7限授業)、進学課外(CS 課外等)に取り組んだりに加え、主体的な取組を実践する場としての探究活動(課題研究、「鈴鹿学」)にも積極的に取り組んでいる。しかし、生徒も教員も取り組むべきことが多すぎてやや疲弊している。 【課題】 ①②入学生の多様化による学力の二極化傾向は今後もさらに続くと思われ、これまでと同じ考え方・取組を進めては近い将来危機的な状況になることや、生徒が主体的に活動する時間の確保や教員の働き方改革に資するためにも、真に効果的な取組に絞って活動していく必要があることから、今後は「新しいスタイルの進学校」を模索し、確立していく必要がある。

学校運営等	<p>【現状】</p> <p>①各教員は教科指導、進路指導、生活指導、部活動指導等において真摯に取り組み、一定の成果を上げているが、個々の教員や学年単位での取組に偏る傾向があり、「全体最適」にはなっていない。</p> <p>②授業時間数の増加、進学課外への取組に加え、主体的な取組を実践する場としての探究活動(課題研究、「鈴鹿学」)にも積極的に取り組んでいるなどやるべきことが増え続けており、教員の負担が増加している。</p> <p>【課題】</p> <p>・「育みたい生徒像」(グラデュエーション・ポリシー)を実現するために、カリキュラムを再構築することで、現在取り組んでいる様々な活動を見直し整理し、取組のスリム化を図る必要がある。</p> <p>・加えて、コロナ禍から途絶えていた職員間の「対話」の場面を多く作り出し、風通しの良い職場風土の醸成を図る必要がある。</p>
-------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<p>○将来、地元を支え、地元で活躍できる生徒を育成するための「新しいスタイルの進学校」を創出する。</p> <p>○生徒の主体的な学習態度を養うとともに、3年間を通じて継続的計画的な学習ができる持続可能なカリキュラムを開発する。</p> <p>○生徒の学習意欲と学力向上を図ると共に、早期からの進路意識向上に努め、国公立大学をはじめとした希望校に合格できる進学状況を目指す。</p>
学校運営等	<p>○授業内容の改善やICTを効果的に活用した授業力向上に組織的に取り組む風土を醸成し、生徒の無限の可能性を引き出す。</p> <p>○大きな視点からの議論(カリキュラム委員会)の中で、職員のベクトル合わせと取組の優先順位などを整理し、全ての職員がやる気とやりがいをもって働ける職場づくりを目指す。</p> <p>○学校の魅力化をすすめるとともに学校からの情報発信を強化します。また、職員の仕事満足度の向上や働き方改革に努める。</p>

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<p>○自分は何に興味・関心があるか、自分には何ができるか、自分は何がしたいのかが明確になっている生徒</p>
---------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
安全安心な学校生活	<p>○交通事故防止</p> <p>○命を大切にする教育</p> <p>○いじめの未然防止</p> <p>○教育相談体制の充実など</p> <p>【活動指標】</p> <p>・交通安全講話、単車通学許可者へのスクーリング</p> <p>・いじめアンケートや集会等での道徳的講話(命の講話含む)の実施</p> <p>・いじめ撲滅のためピンクシャツ運動等の啓発:年10日以上</p> <p>・教育相談に関わる情報共有の強化、事例検討会の実施</p>		※

	【成果指標】 ①自転車バイクの事故件数:10件以下 本校生徒の過失による事故件数:0件 ②いじめ重大事態 0件 ③心の問題の早期発見、解決		
将来を見据えた学力の向上	○「育成したい生徒像」を具現化するカリキュラムの創出 ○効果的な観点別評価や1人1台端末に対応した授業の質の向上 ○家庭学習習慣の定着、質の向上 ○校外活動への積極的参加 ○探究的活動(理数科「課題研究」 普通科「鈴鹿学」)の充実 【活動指標】 ・定期的なカリキュラム委員会の開催、先進校へのベンチマーキングの実施 ・1人1台端末を活用した授業の公開・研究 ・家庭学習に係る実態調査の実施、分析、共有 ・地元小中学生に対する学習指導や実験教室の実施、充実 ・大学や研究施設との連携、訪問授業や企業訪問の実施 【成果指標】 ①生徒による授業評価(主体的活動): 60%以上 ②授業満足度・理解度:50%以上 ③1年次第1回 GTZ(3教科平均)と比較して、2年次第1回で上昇・維持した生徒の割合:70%以上 ④学習到達度 B3以上:60%以上 ⑤科学オリンピック、みえ科学探究フォーラム等への積極的参加 ⑥図書館貸し出し冊数1人当たり:年3冊以上/年		◎
進路指導・キャリア教育の充実	○生徒の早期の進路意識向上と希望進路の実現 ○総合型選抜・学校推薦型選抜への対応 【活動指標】 ・キャリア関連講演会・説明会や職業体験などへの積極的参加 ・探究活動の成果を生かした進路指導 【成果指標】 ①国公立大学合格現浪計:80人以上(内、三重大:30人以上) ②内、総合型選抜・学校推薦型選抜合格者:24人以上		○
部活動の充実	○「文武両道」と部活動を通じた人づくり 【成果指標】 ①生徒の部活動加入:85%、3年間継続:80%以上 ②東海大会以上出場クラブ数:5以上		○
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
----	---------	----	----

<p>教員の 指導力向 上</p>	<p>○授業の質の向上 ○ICT活用, 観点別評価, 高大接続, 人権教育, 教育相談等の研修会の実施 ○校内外研修会への積極的参加 【活動指標】 ・ICTを効果的に活用した授業公開・研究の実施 ・「観点別評価」の効果的な活用手法の研究 ・教育相談に係る講演会、研修会の実施 【成果指標】 ①授業理解度:50%(Top Box) ②授業での Chromebook の活用:80%以上 ③指導方法に関する教員の肯定的評価:50%以上(TopBox) ④教職員のカウンセリングマインドの向上 ⑤職員満足度調査の研修項目肯定的意見:70%以上</p>		※
<p>教育改革対応 及び学校運営 全般</p>	<p>○スクールポリシー(カリキュラムP、アドミッションP)の策定 ○学校の魅力の発信力強化 ○コンプライアンスの遵守 【活動指標】 ・「カリキュラム委員会」を通年で開催 ・小さい単位でのコンプライアンスミーティング等の実施 【成果指標】 ①新カリキュラムの策定 ②受検倍率:前期3倍、後期1.3倍確保 ③教職員による不祥事ゼロ</p>		○
<p>働きやすい 職場づくり</p>	<p>○風通しが良く何でも言い合える職場づくり ○時間外勤務の削減と働きやすく働きがいのある職場づくり 【活動指標】 ・職員同士が本音を語り合う場の創出(オフサイトミーティング(8/20)の実施) ・SSSの効果的な活用 ・職員との対話年間3回以上 満足度調査の実施 【成果指標】 ①定時退校日12日以上/年・定時退校者率:90%以上 ②一人当たりの月平均時間外労働:20時間以下 ③年間360時間を超える時間外労働者:0人 ④月45時間を超える時間外労働者の延べ人数:0人 ⑤1人当たりの年間休暇取得日数:18日以上 ⑥職員満足度:30%以上(Top Box)</p>		※
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

<p>明らかになった 改善課題と次への 取組方向</p>	(年度末に記載)
--------------------------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動について の改善策</p>	(年度末に記載)
<p>学校運営について の改善策</p>	(年度末に記載)

